とすは、のにのおもござりましょうが、 おをって、、をおぎなされて、をりへおでなさるれば、 、はいたしてと名のりまする。よりまで、お手に入れまするの薬は、 昔、ちんの国の、という人、わがへたり、へのから、この薬を深くめき、 ゆる時はづつ、のすきよりす。 ってその名を、より「」とる。 ちには、「いただき、すく、におい」と書いて「とうちんこう」と申す。只今はの薬、のにまり、ほうぼうにをし、 イヤ、の、の、さんの、のと、色々に申せども、 をって「ういろう」とせしは親方円斎ばかり、 もしやおいのに、か、のへにおなさるか、 は、のからは、必ずちがいなされまするな。おりならばの、おりならば、 がつ、おもてがつり、にはにのとうのをごあって、 正しきでござる。イヤよりのばかり申しても、ご存知ないには、 のの、、さらばたべかけて、そのいをお目にかけましょう。  
づの薬を、かようにの上にのせまして、へめますると、 イヤどうもえぬは、、、、がすこやかにって、よりり、 をずるがし、、きのこ、のせ、その、あること神のし。  
さて、この薬、第一のには、舌のまわることが、がはだしでげる。 ひょっと舌がまわりすと、ももたまらぬ。そりゃそりゃそらそりゃ、まわってきたは、ってくるは、アワヤ、 サタラナに、カサ、ハマの二つはの、さわやかに、 アカサタナハマヤラワオコソトノホモヨロオ、一つへぎへぎに、へぎほしはじかみ、 まめ、盆、盆ごぼう、、つみ、つみ、の、 のなまがみ、粉米のなまがみ、こん粉米のこなまがみ、、、儒子、、 も、も嘉兵衛、親かへい子かへい、子かへい親かへい、 ふるの木の、雨がっぱか、か、のきゃはんも、がきゃはんも皮脚絆、 のしっぽころびを、はりながにうて、ぬうてちょとぶんだせ、 から、、のら、のら如来、のら如来にのら如来、 のおに、おけつまづな、にどじょにょろり、の、なま、ちょと、 おちょ、茶立ちょ、と立ちょ茶立ちょ、で、お茶ちゃと立ちゃ。るは来るは、何が来る。ののおこけら、百匹、百ぜん、百ぱい、八百本。、、武具、馬具、ぶぐばぐ、せて武具馬具武具馬具、 、、菊栗、菊栗、合せて菊栗、菊栗、 ごみ麦ごみ、麦ごみ、合せて麦ごみ麦ごみ、 あのなげしのなぎなたは、がなげしのぞ、 向こうのごまがらは、のがらか、がらか、 あれこそほんのがら、がらぴいがらぴい、おきゃがれこぼし、おきゃがれこ、 ゆんべもこぼして又こぼした、たあぷぽぽ、たあぷぽぽ、ちりから、ちりから、つったっぽ、 たっぽだっぽだこ、ちたらてくを、煮ても焼いても喰われぬものは、、 きゅう、かなどうじに、、、、虎きす、にも、のにはがうでつかんでおむしゃる、かののひざらず、、きんかん、、めてごたんな、そばり、そうめん、うどんか、 な、の、の、に、こが、こるぞ、 こ、こもって、こすくって、こよこせ、おっと、がってんだ、 たんぼの、、、、を、走って行けば、やいとをりむく、 ばかりか、、、がしや、のを七つおきして、 そうそう、とうちんこう、れござらぬの、花のお江戸の花うろう、 あれあの花を見て、お心を、おやらぎやという、、うにるまで、 のうゐろうのご、ご存知ないとは申されまいまいつぶり、だせ、棒だせ、 ぼうぼうまゆに、うす、、すりばちばちばちぐゎらぐゎらぐゎらと、 をはずしておでのに、 げねばならぬ、売らねばならぬと、せいっぱり、世界の薬の、 もあれと、ホホって、うろうは、いらっしゃりませぬか。